



門三三

名

子

特別
A5
6673
120
早稲田大学図書館



安永七戌戌天



祝晨

其一

厚月考

幸柳やあゝんまの神ん

かき何

丁しりもなふ代乃かこ所 有るよ

解くもまをとりせれ人々来て 宗己

其二

養心居

困五

亦乃まや自然をせれよ色も情

もあ(ふ)とわ(ふ)の 玉 筆御

不富(山)の(紫)の(サ)子(ハ)も(三)て 在中

其三

は南舎吉

有草

か(ハ)ま(や)あ(ハ)海(と)あ(ハ)む(の)妻

ツ(初)を(予)ま(川)を(の) 時(り) 宗己

糸(雀)と(く)え(ハ)茶(や)川(と)不(よ)て 等(何)

宗己且又十賀

合(何)も(さ)る

す(子)を(さ)れ(あ)と(ま)れ(と)や(か)と(海) け(随)

以(川)も(ま)も(海)に(よ)く(初)初(瓶) 茶(白)

や(し)も(ま)の(さ)も(の)の(神)鳥 危(杯)

清(ま)も(れ)と(ん)の(せ)初(ま)て(の)妻 枕(旨)

一酒

宗己美白

万室の取つて御多うなすおの浦は
陣ぶらうせき屋に平直を備へ平の
股ももつてくまられを御多うの
わかま御多うて除夜をせん侍

浦をとりれやるを乃とりの流左中

采女孤獨の所をう控棒り
床をきよめ極を投入れていきつ
との角さうぬいよも木り

侍もや又まのりわれ改り用乙

師ももつ鷹の末をせういご
ぬくはたふりておつてのせういご
股ももつてくまられを御多うの
わかま御多うて除夜をせん侍
氷を室有るを御多うて除夜をせん侍
梅枝を室有るを御多うて除夜をせん侍
一房のしちまを御多うて除夜をせん侍
惚ち或は御多うて除夜をせん侍

侍のしちまを御多うて除夜をせん侍

春魚の表

まきり御多うて除夜をせん侍

まきり御多うて除夜をせん侍

おつて御多うて除夜をせん侍

御多うて御多うて除夜をせん侍

まきり御多うて除夜をせん侍

上まきり御多うて除夜をせん侍

御多うて御多うて除夜をせん侍

月乃名れ御多うて除夜をせん侍

おつて御多うて除夜をせん侍

文通人日

以哉坊

房の御多うて除夜をせん侍

まきり御多うて除夜をせん侍

